

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800597		
法人名	社会福祉法人 みな福祉会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野302-2		
自己評価作成日	平成23年2月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設の畑にて季節の野菜を作り、利用者や家族からも大変喜ばれている。 ・日頃の様子をパソコンに入力し、月1回家族にお知らせしている。 ・個別対応にて外出や外食の機会を作っている。 ・芝生のスペースがあり時折グランドゴルフを行っている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-1174800597.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88		
訪問調査日	平成23年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員と利用者が同じ台所に立っての食事の準備・ベランダに出てプランターの草花への水遣り・洗濯物を干す等、自分が出れることを精一杯行っている利用者、それをさりげなく支援している職員の間で、お互いが感謝し、支え合いながら張りのある生活を送っている姿が入居者の表情からうかがえる。1階に併設されたデイサービスセンターとは常に連携が図られている。裏にある畑を利用者と共に耕し、野菜を育て、収穫して食する事も楽しみの一つとなっている。施設の環境の良さにも驚かされる、庭ではグランドゴルフが出来、秩父の山々や荒川の流れが身近に一望でき自然環境も大変素晴らしいところである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく自分らしくそして、地域の暖かいふれあいの中で生きられるよう認め合い支えあって暮らす」に沿うよう、日々の援助方法や誕生会等の行事など指導、実践している。	理念は職員の目に留まるところに掲示してある。会議の時など、施設長より職員に話している。利用者一人ひとりがその人らしく生活出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店で食材等の買い物や美容院に行ったり、又散歩やホームの畑での作業中など、近隣者と交流を持っている。今年度より、近隣者の協力を得て、消防訓練を実施している。	食材を地元のお店に買い物に行ったり、美容院に行くなど、地域の方との交流が盛んである。消防訓練も多くの近隣住民が参加して、地域との親密な交流が実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初より事業所だけでなく法人全体で民生委員の見学の受入や町主催のふれあい祭りで法人の出展コーナーもあり相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務・行事内容の報告と22年6月の会議で外部評価の結果について報告をしている。避難訓練では、区の自主防災会との連携を図ったらとの意見により、協議会を開き実施している。	定期的に行う運営推進会議では、民生委員や区長、地域包括、家族等10名程度の参加がある。会議等で出た意見はサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時変更・更新申請などの基準等不明なことは相談し、又、指導・アドバイスを受けながら進めている。	制度や利用者に関する内容で必要な事に就いては速やかに連絡がとれている。市町村との連携は密に行なわれており、各種のサービスに関する情報や動向を把握して、相談に応じる機会を作り、質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを徹底している。鍵については日中は施錠はしていない。常日頃身体拘束をしないケアについて考え、理解、実践するようさせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。又、随時家族にも虐待の種類や町への通報について説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前担当していた特別養護老人ホーム時に成年後見制度の研修を受講し、又1名の制度を利用しての受入、1名は入所中に申請を経験している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方等、契約時には具体的な契約内容、個別のケース対応の取り方など説明と相手からの質問など受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望等管理者会議、運営推進会議で報告検討し、又評議委員会・理事会の事業報告・中間報告でも報告している。又、事業報告はグループホームだけでなく法人の他の事業所へも閲覧できるよう公開している。	家族が来所した際には、積極的に意見や要望を聞いている。また意見箱を設置するなど気軽に相談できる雰囲気作りをしている。出された意見や要望などは速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全職員対象に職員意識調査を毎年実施し職員の意見を聞いており、又結果について管理職会議(調整会議)で報告検討している。	職員アンケート調査の実施を行い、意見やアイデアを聞き、職員間の意思疎通を図っている。意見・提案は前向きに取り入れて、運営に反映させる取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行いその評価に応じ年2回の賞与と年1回の昇給に反映させ、又、資格取得者に手当を支給している。22年9月の職員会議では、介護職の腰痛やストレスについて議題にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議、グループホーム会議の内部研修では一人一人の出席率を把握・評価し、又外部研修にも積極的に受講するよう命令を出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会の研修会に参加し交流も深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安や困り声を傾聴し現状の把握に努め、医療機関や家族との連携を図りながら、施設生活を安心して過ごしていただけるよう援助を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族と十分に話し合いを行い、本人の状況に合ったケアが出来るよう対応している。状況の変化時は電話にて連絡し相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向や希望の把握に努めケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手作りうどんや郷土料理を職員が利用者から教わりながら一緒に作り、楽しく食事が摂れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の変化時は電話にて連絡を取り相談しながら家族にも協力していただき、面会や買い物、ケアのアドバイスを頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院やかかりつけの医療機関を利用し馴染みの関係を大切にしている。	利用者は定期的に行きつけの美容室に出かけたり、家族とお墓参りに行ったりと、これまで大切にしてきた関係を継続した生活をしている。利用者本位の個別対応がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況を見ながら職員が間に入り、話し相手になったり関係を築いている。食事の席もその状況を見ながら、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に「何かあったらご相談下さい。」とお話するが、こちらから積極的に関係を継続することはしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑仕事、針仕事、料理、カラオケ、五日並べ、貼り絵、習字等本人が希望されることを行っている。医師からの指示で、階段昇降訓練やグランドゴルフ等の運動を行っている。	個々の利用者とのコミュニケーションから、表情やしぐさ等に注意し、希望や意思の把握に努めている。自分が楽しいと思う事、自分の好きな事を引き出す努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前後に家族の方と本人に話を聞いている。本人には毎日の関わりの中で会話を通して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイル、一日の体調や気持ちの変化の様子、本人の持っている力を理解し、やりたい事を把握する。月一回の会議で検討したり、変化のあるときには相談し、申し送り帳に記録し、ケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人との話し合いの場を設けたり、ケアカンファレンスを行い、現場の意見を取り入れながら介護計画を作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向や要望を聞き、日々のケアから問題点を職員で話し合い作成している。利用者に添う具体的支援方法の考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・バイタル・入浴は個別にPCに入力しながらケアを実践し、その結果を記録として残し、職員間で情報を共有し、ケアプランの改善に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院、緊急時の通院支援、お墓参りの同行、日用品の買い物、個別の外食や外出等本人の希望に応じた支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌や音楽、踊りのボランティアに来ていただき生活に楽しみを持っていただく。又、郷土料理のうどん作りを教えてもらい、食事をしたり、個別で押し花の作品を作る。最近では近所の方を交えグラウンドゴルフを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族と十分に話し合いをした上で、本人・家族の希望に沿うようにしており、入居以前からのかかりつけ医の受診支援も行っている。通院も家族の同行が必要な場合は同行していただいている。	利用者の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を継続している。通院は基本的には職員が同行するが、家族が同行することもある。受診の結果については、家族に報告を行い情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある職員を計画作成担当者として配置している。体調不良時や緊急時に看護師に報告し、医療機関への相談や、通院支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、病院スタッフに確認し、家族にも報告を行い退院時の受入に備えている。通院時の本人の状況を把握し、適切なケアを行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を見ながら基本方針として、施設での対応が難しい場合には他施設への移転となる。終末期については、家族や医師と相談しながらの対応となる。	重度化や終末期には、事業所が対応し得る支援方法を明確にしている。重度化していく中で、家族、医師、職員とも対応方法やリスクについて繰り返し話し合いを続け、出来る範囲の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム会議にて心配蘇生法・AEDの使用法・吸引器・酸素の取り扱い法・緊急時の通報等を学び実践にいかしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、災害時の避難訓練を実施している。利用者もほぼ全員戸外へ避難する。地元町会との防災協定を結び、協力をお願いしている。昨年12月には地元自主防災会の役員の方や近隣の方々と交えた消防訓練を実施している。	避難訓練では、近隣の住民も大勢参加し、水消火器を使用した訓練を行っている。緊急時の協力体勢が地域を含めて整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者、職員は利用者への言葉掛けや、入浴・トイレ誘導時などプライバシーに配慮した、対応を心がけている。記録や個人情報の取り扱いについても徹底している。また、ボランティアの受入や外部における行事への参加時なども個人情報に対する配慮をしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう丁寧な言葉掛けをしている。職員間では、使ってはならない言葉等も確認し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員間での信頼関係が築けるよう日々の関わりを大切にしている。食事やおやつ等も食べたい物を聞き提供している。誕生日会も利用者の食べたい物を手作りし皆で祝っている。ケアを行う前は利用者に確認をしてから行っている。入浴後や外出時の洋服選び、余暇時間の過ごし方等希望を聞きながらケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながら、趣味の花作りや読書、テレビ鑑賞など出来るだけ希望に沿うよう支援している。なお、外出の際は1階で勤務している職員の協力も得ながら利用者の想いを汲み取り安全確保に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はその人の希望で理髪店、美容院へ行っている。衣料品の買い物は近所の衣料品店に外出し、本人に選んでいただき買い物支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手打ちうどんやギョーザ・コロック等職員と一緒に作ったり、料理の下ごしらえや味見もお願いしている。利用者とお出しに出かけ、食べたい物を選んでいただいている。	自分たちで育てた野菜を調理したり、買い物の時に利用者を選んでもらうなど、食事に関する楽しみが多い。又、職員が食事準備中にも利用者が手伝いに入ってきたりする等、出来る事は行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況は毎食チェックしている。医師の指示でカロリー制限のある利用者の援助も行っている。食事量や食事形態も個々に把握している。一日を通して水分補給を行い体調の変化に応じた食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の義歯洗浄はほとんどの方が行っている。食後のうがいや歯磨きは声掛けをして行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く過していただく為はその人の排尿パターンや排泄のサインを見て、トイレ介助を行っている。夜間も様子を見ながら見守りや介助を行っている。	排泄チェック表を作成し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の状態や体調に配慮してトイレ誘導や声かけを行い、自立した排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の排泄状況を確認しながら繊維質の野菜や乳製品を取り入れ、水分補給・散歩・運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴回数を増やしたり、入浴出来なかった場合には、日にちの変更や時間調整を行っている。体調不良時には、清拭・着替えを行っている。	併設されているデイサービスの温泉を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯等を行うなど、入浴を楽しめる環境が整っている。声かけを工夫し、気持ち良く入浴出来る工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度・湿度調整や照明は利用者の状況を見ながら環境整備を行い、冬場は希望を聞きながら、湯タンポ等使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作成し、現在服用している薬を理解し、薬をセットする人、与薬する人、服用の確認をする人の3人の職員で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事・料理の下ごしらえ、うどん作り、草花の手入れ、掃除、洗濯物を干したり畳んだり、家庭菜園など出来ることをやっていたいしている。個別対応で外出・外食・買い物など楽しく過せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食品の買い物は交代で出かけている。個別対応として、食べたい食品の買い物、行きつけの美容院への外出、お墓参りなど希望を聞きながら家族への協力もお願いし支援している。	天気や体調などを考慮し、散歩や買い物に出掛けている。また、車を使用しての外出支援を行い花見などの外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力で自己管理している方、ホームで全て管理する方がいる。それぞれの方の状況に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時、相手の時間帯を見てホームの電話を使用していただいている。かかってきた電話は取り次いで話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の草花を生けたり、利用者の作品を飾っている。新聞・雑誌・テレビ等自由に見ていただいている。季節行事も利用者を交えて行っている。	窓が大きく取られているので、外の雰囲気や季節感が楽しめる。自宅の雰囲気を味わえるよう、畳のスペースがあり、身体を休める事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関の縁台やコタツのスペースにて気の合った人たちで、談話されたり、お一人でゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族をお願いして、以前使用していた家具や、馴染みの深い物を持ってきていただいている。写経や家族の写真を飾っている人もいる。	居室には、自宅で使用していた家具や、馴染みの深いものを飾ったりしている。安心して生活できるような工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の手すりを使用しながら安全確保に努め、自立した生活が送れるよう支援している。夜間のトイレ利用時は常夜灯を使用し、見守りを行っている。		